随筆　筆者の見方・考え方の読み取り

(次の文章は、筆者が女学校の低学年だった頃の出来事を描いたものです。)

ある日、寝ころんでいた兄が、

「綾子、水を持って来てくれないか。塩を入れてな」

と言った。私は内心、寝ころんでいて人に用事を頼むのはおかしいと思ったが、何しろ戦前である。自分より年上の者に、口を返すということはわが家にはなかった。私は黙って、コップに水を注ぎ、塩を入れて持って行った。兄は起き上がり、ひと口飲んで言った。

「綾子、お前、塩をあとから入れただろう」

私はうなずいた。

「塩を先に入れてから、水を入れるもんだよ」

そう言って、兄はにやりと笑った。別にどうということはない。ただそれだけのことなのだが、私は突如、兄を偉いと思った。塩水一つつくるのに、私は無雑作だった。その無雑作なやり方を、兄は素早く見破ったばかりでなく、笑いながら注意してくれた。

(侮れないわ)

私はそう思ったのだ。私と兄は九つちがいであった。私が生れた時、兄は既に十歳であった。私が十になった時、兄は十九であった。

同じ部屋に住んでいても、二人だけで共に遊ぶとか、ゆっくり話し合うという機会はなかった。私の話相手は、三つ上の姉であり、二つ下の弟であった。

(菊夫兄さんは、大人なんだわ)

大人という者は、塩水一つつくるにしても、ことをおろそかにしない。それはおそらく、幾度もの体験の中で得たものにちがいない。そして、これは単に塩水だけにとどまることではないのであろうと考えた。大人になるまでの積み重ねの中で、どれほど多くのことを知り弁えているか計り知れないのが大人だと感じた。兄の前に一歩引き下がる思いが湧いた。これは私にとって、私が成長する上に、実に大きな体験となった。

(三浦綾子『忘れえぬ言葉　私の赤い手帖から』小学館　による)

筆者の見方・考え方と主題

随筆に表れる筆者特有の見方や考え方を捉えると、**主題**が読み取りやすくなる。

①文章の題や、繰り返し使われる語句などに注目し、**話題**を読み取る。

②話題に対する**筆者の意見・感想**を読み取る。

③**筆者特有の思い・考え**を捉える。

※特に、表現技法や印象的な描写が使われている箇所、筆者特有の視点が表れている箇所に注目する。

例題

本文中の体験から、筆者は大人に対してどのように感じたか。本文中から四十字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も一字に含む。

□□□〜□□□

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の前半と後半の内容をそれぞれ選びなさい。

ア 筆者が体験した出来事をくわしく述べている。

イ 体験した出来事から考えたことを述べている。

前半［　］ 後半［　］

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 兄に塩水のつくり方を注意されて以降、筆者は年上の者に口を返すということをしなくなった。

イ 兄に塩水のつくり方を注意されたとき、筆者は用事を頼んでおいて注意をする兄に内心疑問を抱いた。

ウ 兄に塩水のつくり方を注意された経験を通じて、筆者は大人とはどのようなものかということを実感した。

［　］